

## 私の留学体験記

広島県立安古市高等学校 2年 小坂 淑乃（こさか よしの）

留学期間 令和元年7月25日 ～ 令和元年8月10日（17日間）

留学先 セント・ジョンズ・グラマースクール（アデレード、オーストラリア）

私は、自分から人に話しかけることが苦手でした。もっと自分から話せるようになりたい、という思いでこの短期留学に参加しました。シンガポールで飛行機を乗り継ぐとき、英語しか伝わらない世界に来たことに不安を感じました。

しかし、オーストラリアに着いて、姉妹校の先生やホストファミリーに会ったとき、不思議と不安が和らぎました。言葉がわからなくても、一生懸命伝えようとすることで気持ちは伝わると思いました。週末は、ホストファミリーと野生のコアラやカンガルーを見たり、バスケの試合を観たり、パーティーに行ったりと、日本にはできないような体験をさせてもらいました。全てが私にとって新しく、一生の思い出に残るものでした。

学校の校外学習では、買い物や博物館などの観光だけでなく、アボリジニについての勉強もしました。私はそこで、アボリジニが人種差別によってずっと苦しんできたこと、幼い頃から家族と離れ離れになってしまったことを知りました。そして、アボリジニについて、もっと知りたいと思うようになりました。

さらに、学校の行事で、世界の環境問題について考える6か国の協議にも参加しました。そこで私は、英語が全く聞き取れないことや、世界の環境問題についてほとんど何も知らなかったことへの悔しさを感じました。そして、もっと英語や世界の諸問題に関心を持って、知識を増やしたいと思いました。

初めての海外で、楽しいことや嬉しいこと、辛いことや悔しいことなど、様々なことを感じました。また、初めての海外がオーストラリアで良かったと思えました。完璧な英語が話せなくても、それをフォローしてくれる仲間や、理解してくれるホストファミリーに出会えて本当に良かったです。言いたいことを英語でどう言えばよいか分からないときに、ホストマザーが、「私達は日本語が分からないけど、あなたのことが大好きよ」と言ってくれたのを覚えています。そのとき私は、言葉がなくても気持ちや笑顔は世界共通だとわかりました。誰でもできるものではない貴重な体験をさせてもらったことに感謝しながら、この体験を糧にし、自分の将来に向かって進んでいきたいと思えます。